

(別添)

名古屋市立大学病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年12月 策定

【名古屋市立大学病院の基本情報】

医療機関名：名古屋市立大学病院

開設主体：公立大学法人 名古屋市立大学

所在地：愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 番地

許可病床数：808床

（病床の種別）一般病床772床、精神病床36床

（病床機能別）高度急性期808床

稼働病床数：808床

（病床の種別）一般病床772床、精神病床36床

（病床機能別）高度急性期808床

診療科目：内科、消化器内科、肝臓内科、呼吸器・アレルギー疾患内科、リウマチ内科、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、血液・腫瘍内科、神経内科、腎臓内科、外科、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、乳腺外科、形成外科、整形外科、産婦人科、小児科、眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、泌尿器科、小児泌尿器科、精神科、放射線科、麻酔科、脳神経外科、歯科口腔外科、救急科、リハビリテーション科、病理診断科、臨床検査科

職員数：1,886名（平成29年4月1日時点）

- ・ 医師 497名（うち常勤269名、非常勤228名）
- ・ 看護職員 931名（うち常勤881名、非常勤 50名）
- ・ 専門職 329名（うち常勤210名、非常勤119名）
- ・ 事務職員 129名（うち常勤 63名、非常勤 66名）

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

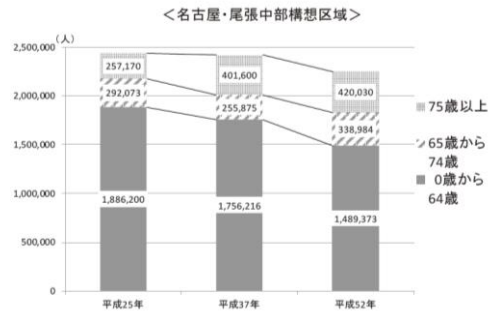
(1) 人口及び高齢化の推移

名古屋・尾張中部構想区域における人口は県全体と同様減少。65歳以上人口は増加し、県全体より増加率は高い。

＜人口の推移＞

※（ ）は平成25年を1とした場合の各年の指数

区分	総人口			65歳以上人口			75歳以上人口		
	平成25年	平成27年	平成32年	平成25年	平成27年	平成32年	平成25年	平成27年	平成32年
県	7,434,996 (1.00)	7,348,135 (0.99)	6,855,632 (0.92)	1,647,063 (1.00)	1,943,329 (1.18)	2,219,223 (1.35)	741,801 (1.00)	1,165,990 (1.57)	1,203,230 (1.62)
名古屋・尾張中部	2,435,443 (1.00)	2,413,691 (0.99)	2,248,387 (0.92)	549,243 (1.00)	657,475 (1.20)	759,014 (1.38)	257,170 (1.00)	401,600 (1.56)	420,030 (1.63)



(2) 医療需要の推移

回復期病床が不足、他の区分は過剰となる見込み。

構想区域	区分	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
名古屋・尾張中部	平成37年の必要病床数①	2,885	8,067	7,509	3,578	22,039
	平成27年病床機能報告	6,380	8,923	1,989	4,463	21,755
	平成27年の病床数②	6,605	9,238	2,059	4,620	22,522
	差引①-②	△ 3,720	△ 1,171	5,450	△ 1,042	△ 483

(3) 入院患者の受療動向

名古屋医療圏において、入院患者の自域依存率は、高度急性期、急性期、回復期は9割程度と非常に高い水準にあるほか、他の2次医療圏や県外からの患者の流入も多く見られる。

○名古屋医療圏から他医療圏への流出入院患者の受療動向（平成25年度）（単位：%）

患者住所地	医療機関所在地													合計	
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河	東三河	西三河	東三河	東三河	県外		
名古屋医療圏	87.7	—	—	10.2	—	1.1	1.1	—	—	—	—	—	—	—	100
高度急性期	88.1	—	0.4	9.8	0.2	1.1	0.4	—	—	—	—	—	—	—	100
急性期	88.3	1.8	0.6	6.2	0.3	1.3	0.5	—	—	0.5	—	—	—	0.5	100
回復期	79.9	1.3	4.3	4.3	0.4	3.1	1.7	1.1	—	0.8	—	0.6	2.6	100	
慢性期	79.9	1.3	4.3	4.3	0.4	3.1	1.7	1.1	—	0.8	—	0.6	2.6	100	

○他医療圏から名古屋医療圏への流入入院患者の受療動向（平成25年度）（単位：%）

医療機関所在地	患者住所地													合計
	名古屋	海部	尾張中部	尾張東部	尾張西部	尾張北部	知多半島	西三河	東三河	西三河	東三河	東三河	県外	
名古屋医療圏	72.3	4.8	2.7	3.3	1.8	3.5	5.4	1.1	0.7	1.1	—	0.6	2.6	100
高度急性期	77.0	3.9	2.5	2.8	1.3	2.6	4.4	0.7	0.5	0.8	—	0.5	2.9	100
急性期	79.1	3.5	2.3	3.6	1.1	2.4	3.4	0.6	0.3	0.7	—	0.4	2.6	100
回復期	84.0	3.1	1.3	5.0	0.9	1.8	1.8	0.7	—	0.9	—	—	0.6	100
慢性期	84.0	3.1	1.3	5.0	0.9	1.8	1.8	0.7	—	0.9	—	—	0.6	100

(4) 医療資源等の状況

名古屋・尾張中部構想区域は、病院数が多く、大学病院が2病院あり、救命救急センターも6カ所整備されており、人口10万対の病院の一般病床数や医療従事者数は県平均を大きく上回っており、医療資源が豊富であるとされている。

○医療資源等の状況

区分	全国	愛知県	名古屋・尾張中部
病院数	8,540	325	137
人口10万対	6.7	4.4	5.6
病院病床数	1,573,772	67,579	25,978
人口10万対	1,236.3	908.9	1,066.7
一般病床数	897,380	40,437	16,748
人口10万対	704.9	543.9	687.7
医療施設従事医師数	288,850	14,712	6,538
人口10万対	226.5	197.9	268.5
病床100床対	17.0	20.3	23.7
病院従事看護師数	747,009	36,145	14,310
人口10万対	586.8	486.1	587.6
病床100床対	47.5	49.9	51.9

② 構想区域の課題

- ・ 大学病院が2病院あり、救命救急センターも6カ所整備されている等、高度な医療を広域に支える役割があり、今後も高度・専門医療を確保し、緊急性の高い救急医療について、他の構想区域との適切な連携体制を構築していく必要がある。
- ・ 人口が多く、面積も広いいため、構想区域内の医療提供体制の地域バランスに留意する必要がある。
- ・ 回復期機能の病床を確保する必要がある。

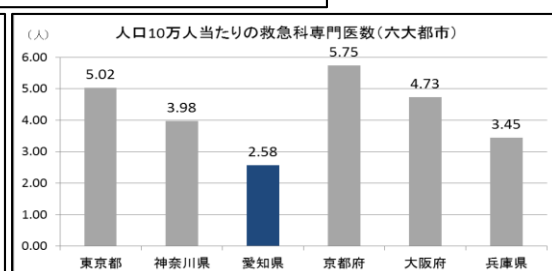
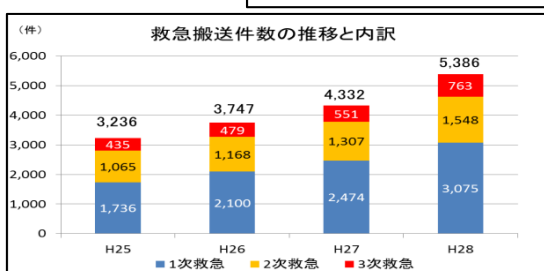
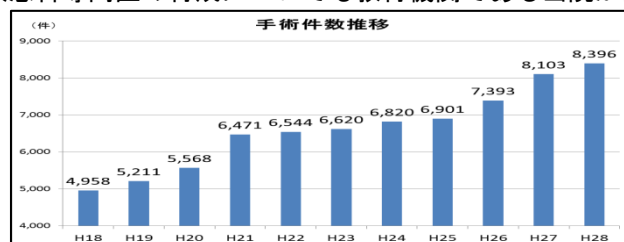
③ 自施設の現状

理念	当病院は、地域の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供するとともに、質の高い医療人を育成します								
基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・大学病院として、高度先進医療を提供します ・高度情報化を進め、安全で開かれた医療を提供します ・医学教育を充実し、高い倫理観を持ち信頼される医療人を育成します ・名古屋都市圏の中核医療機関として、市民の健康と福祉を増進します 								
診療科目	内科、消化器内科、肝臓内科、呼吸器・アレルギー疾患内科、リウマチ内科、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、血液・腫瘍内科、神経内科、腎臓内科、外科、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、乳腺外科、形成外科、整形外科、産婦人科、小児科、眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、泌尿器科、小児泌尿器科、精神科、放射線科、麻酔科、脳神経外科、歯科口腔外科、救急科、リハビリテーション科、病理診断科、臨床検査科								
許可病床数	808床（一般772床、精神36床）								
高次機能病床	ICU10床（うちPICU4床）、CCU4床、救命救急センター20床（うちEICU2床）、MFICU6床、NICU12床、GCU15床								
診療実績	<table border="0"> <tr> <td>入院延患者数：249,133人</td> <td>外来延患者数：425,293人</td> </tr> <tr> <td>新入院患者数：18,262人</td> <td>救急車受入件数：5,386件</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数：12.6日</td> <td>手術件数：8,396件</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率：86.0%</td> <td>（平成28年度実績）</td> </tr> </table>	入院延患者数：249,133人	外来延患者数：425,293人	新入院患者数：18,262人	救急車受入件数：5,386件	平均在院日数：12.6日	手術件数：8,396件	病床稼働率：86.0%	（平成28年度実績）
入院延患者数：249,133人	外来延患者数：425,293人								
新入院患者数：18,262人	救急車受入件数：5,386件								
平均在院日数：12.6日	手術件数：8,396件								
病床稼働率：86.0%	（平成28年度実績）								

当院は、地域の中核的医療機関として、高度急性期病床としての役割を担うとともに、がん・脳卒中・心筋梗塞などをはじめとする5疾病や、救急医療・災害医療などの政策医療についても積極的に取り組んでいる。また、名古屋市が設置する医療機関（東部医療センター・西部医療センター等）をはじめとする地域の医療機関等との連携や、教育研究機関として優れた医療人の育成や臨床研究に取り組んでいる。

④ 自施設の課題

- ・当院における重症度は $\text{\textcircled{2}}27.4\%$ （ $\text{\textcircled{2}}27.1\%$ ）、病床稼働率は $\text{\textcircled{2}}86.7\%$ （ $\text{\textcircled{2}}86.0\%$ ）で高い水準で増加している。手術件数も年々増加しており $\text{\textcircled{2}}$ 実績は8,396件（ $\text{\textcircled{1}}4,958$ 件）であり、高度な医療の需要が高まっている。これらのことから、今後も高度急性期病床の機能を担う必要があるため、将来の医療需要の増加を見据えて、手術室や内視鏡室の拡張など高度急性期に向けた機能強化を実施している。（※ $\text{\textcircled{2}}$ 29年4～11月実績）
- ・3次救急をはじめ救急搬送件数が増加しており、今後も高齢化に伴う救急搬送件数の増加が見込まれることから、より重症な救急需要の増加に対応していく施設・体制整備を進めていく。また、愛知県の人口当たり救急科専門医数は他の大都市と比較しても少ないため、今後の需要に対応できる救急科専門医の育成についても教育機関である当院が担う必要がある。



【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 大学病院として高度急性期病床の機能を維持していく。
- ・ 地域の中核医療機関として、地域医療連携の一層の推進を図ることで、地域包括ケアシステムの構築及び名古屋市全体の健康福祉施策の充実に寄与する。
- ・ 学会の認定施設として、約90の認定を受けており、主要となる基本領域のみならず多岐にわたる専門領域を含めた包括的な研修が可能であることから、教育機関として優れた医療人の育成により、地域の医療の発展に貢献する。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 現在の高度急性期病床の機能を維持する必要がある。
- ・ ただし今後の構想区域の必要病床数の見込みから、特に不足する回復期病床に対応するため、関係する医療機関を含めた、病床機能のあり方について検討する。
- ・ HCUの設置など高度な病床機能の整備を進める。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	772	→	772
急性期	0		0
回復期	0		0
慢性期	0		0
(合計)	772		772

現時点では当院における病床機能の変更予定なし。

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度			
2018年度			
2019～2020 年度			
2021～2023 年度			

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

現時点では当院における診療科の見直し予定なし。

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床稼働率：86% (H29目標値) ・ 手術件数：8,500件 (H29目標値) ・ 重症度：30% (H29目標値) <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療収入：27,598百万円 (H29目標値) <p>その他：</p>

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

--